

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H20年12月に、地域に関わる理念を、職員ひとりひとりに考えてもらい、新しい理念に変更した。朝の申し送り前に声にして言っている。行事に地域の方々に参加して頂いている。(ソーメン流し、敬老会、慰問など)	○	車イス利用者が多いこともあり地域の行事などに参加できていないが、参加できる方法を検討中である。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	行事の時、近所の方への声かけを行い、理念を実践していくよう取り組んでいる(もちつき、ソーメン流し、敬老会) 全職員笑顔で接する事を心がけている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホールの分かりやすい部分に理念を掲げている。推進会議の時にも、新しい理念を説明している。理念がわかるような大きな字で書かれ、来訪者にも分かる所に貼っている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時の挨拶は必ず行う。周りに農作物が多いこともあり、そういった話題を取り入れて会話につなげている。	○	近所の方の野菜や果物の差し入れが時々あっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会が学校行事の清掃活動の際、職員と利用者が一緒に参加した。地域の行事(県の有文化財泥打ち祭り)に見学・参加神主のお祓いを受けている。	○	地域の老人会に参加したいが現在車イス利用者が多く参加できていない
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	個人的に老人問題(認知症など)に相談があった時に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回のミーティングの時、問題点など話し合っている。評価の結果は、全員に配付し話し合いを行った。	○	さらにもう一步踏み込み知識の共有を全員で行いたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の状況や施設の行事等を伝えて、意見、質問などを求めている。推進会議での報告は、次のミーティング時に管理者より説明があり、ミーティング欠席者はミーティングノートを見るようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の結果報告を窓口まで持参していません。他の書類提出の時、郵送やFAXはなるべく避け、出向いて行き、色々な事を尋ねたりしている。 施設のパンフレットを置いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修会には、知識を得るために、順番で参加をしてもらっている。ミーティング時、研修報告を行い勉強するようにしている。入所時に管理者が説明しており、パンフレットを目に付く所に設置している。	○	パンフレットを置いている
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加している。又、それを伝達して、虐待防止の徹底に努めるようにしている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に「利用規約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応」を説明し、不安を和らげ、質問がないかを尋ねている。又、面会時には、どんなことでも良いのでスタッフに尋ねるように活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回のすずらん便りで生活の様子を知らせたり、家族の面会時にコミュニケーションをとり、意見、需要の有無を聞き取り対応している。又、地域の方と交流時に話し合えるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「すずらん便り」を送り、その月の行事風景を送っている。又、状態が急に悪化した時は、その都度連絡しているが、全身的なことは「すずらん便り」と一緒に手紙に入れている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に常に利用者の状態を話し、意見や要望を尋ねている。家族からの不満、要望があった時は話し合うようにしている。推進会議でも意見を聞いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング(1棟2棟合同)月1回のケアプラン会議を行い、意見や提案を聞く場を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態にあわせ、4交代のローテーションにしておき、状態変化に応じた対応が出来るようにミーティングなどで常に話し合いを行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者は医療面は看護師、ケア面はユニット長が説明し、一緒にシフトに入る。全利用者に対応できるように1、2ユニット職員の交代を行っている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別等排除はしていない。本人の能力を十分に發揮できるように担当を決めている。希望の研修費用や旅費等も保証している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に参加し、ミーティングで研修報告を必ず行っている。 現場でも常に人権に対する考え、気持ちを考えて話し合えるようにしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や高齢者グループホーム協議会、朝倉市介護保険事業協議会に積極的に参加し、必ず報告書を提出し、会議の時には報告している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、介護事業協議会の研修会に積極的に参加している他、事業所への訪問や、意見交換をしたり、電話にて情報収集を行っている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	細かに会話を行っている中で、体調の変化、状態の変化に常に気をつけている。 個人的に話す機会は特に大事にしている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望する研修に積極的に参加し、研修扱いにして、研修費、旅費の補助をしている。必要な書物は購入し、パンフレット類は回覧したり、ファイルにとじて読んだらサインをもらっている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談時家族だけの時は、ご本人とよく話して頂くように説明し、必ず施設内を見学してもらい、次回は本人の面会をお願いしている。ケアマネージャーより情報を収集している		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方はグループホームの事がよくわからないため、不安と心配なことをたくさん抱え込まれていると思われるので、グループホームの説明をし、質問はありませんかと細めに聞いている。いつでも面会や電話をされたいと伝えて、		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同業者や福祉事業者との情報交換を行い対応できる様に努めている。空室がなく、他のサービス利用が必要な時は他の施設を紹介している。各ユニット毎に管理者と含めて意見交換を行い対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に各ユニット長と訪問し、顔を見て馴染みの関係を作るようにしている。ホームの説明を十分に話し、見学してもらい、他の利用者の方と話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の昔の話から知恵を頂く。上から物を言わないようにしている。目線を合わせる。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活歴などを考慮し、面会時には必ず状態を報告し、喜びを一緒に共有している。問題点などは相談し昔のことを聞き、方向性を一緒に考えていくようにしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に要望や意見を尋ねたりしている。入所前の生活状況の聞き取りを充分に行う	○	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お彼岸に実家へ行く。 御主人の法事に参加する。 結婚式に参加して頂く。		

33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にソファに座って頂いたり工夫している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする	亡くなった家族との交流に努めている。 退所された方の病院見舞い。 お通夜 お葬式 初盆参りをしている		

する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている

の週に、の葬式、物置多クとしている。
「野菜取りに来て下さい」と声をかけて頂いている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を決めている。身体状況により出来る事、出来ない事が多々あるが、車イス上での出来る事等を色々考え、一緒に行動する様にしている「自分で歩きたい」と意向を知り、会議をもち常に見守りをし歩行器を使用するようになり、不穏状態も改善された。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ユニット長と一緒に、入居前の面談時や他の施設へ足を運び聞き取りを行い、書類の提出なども依頼している。センター方式での情報もスタッフ全員で考えて把握する様に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護内容をチェックする事で本人の状態を把握する事が出来る。本人の出来る事、出来ない事を見極め理解している。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別手順書を作成し、全職員で会議をもち評価し、意見交換を行っている。かかりつけ医や医療機関を訪問し、アドバイスを頂いている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のケアプラン見直しをしているが、期間外での状態の変化のある方の意見も聞き検討している。	○	
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、活動内容などの記録により情報を共有し、実践している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院が長期化にならない様、医療側と相談し、早期退院を行っている。家族が病院受診できない方は施設で行っている。結婚式の為、管理者が送迎と披露宴に参加し、食事や移動を行ったり、外泊の時不安をなくす為、管理者と一緒に泊まった。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月の消防訓練と年2回の消防立入りの訓練を受け、評価して頂いている。ホームの行事に子供会やボランティア、民生委員の方に協力して頂いたり、推進会議の中での研修のアドバイスをうけ受講している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他の施設のケアマネジャーや看護師に相談し、支援方法を話している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への協働はあるが、他は特にない。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、受診の際は必ず記録し、職員が把握している。町内のかかりつけ医はそのままにし、日曜、祭日等連絡が取れない時は施設の協力医療機関に了解を得る様にして利用者の状態を悪化させないように努力している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を窓にし、治療方法など助言して頂いたり、職員も状態報告している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制をとり、協力医療機関の看護師に相談している。施設内に看護師が2人いるため、常に状態変化に注意している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者・ユニット長・担当職員が見舞いに行き、情報収集に努めている。家族にも、退院後の施設内での生活状態の変化などを話している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時のマニュアルを作成している。電話などで家族に再々連絡を取り、状態悪化している事を説明し、医療機関とも、頻繁に話し合いをしている。看護師とも常に連絡がとれるようにしている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間連携体制を取り、主治医や協力医療機関に相談、助言をして頂き、利用者の状態を把握し、全職員で検討している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	担当のケアマネージャーやソーシャルワーカー、看護師と連絡し、家族と話し合いを行っている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりのプライバシーは尊重して対応している。呼び名、声かけはその人を損ねない様な言葉かけをするようにしている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員のペースじゃなく、本人様の意思表示を尊重している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	問いかける等無理じいはせず、支援している。就寝時間など個人によって違い、テレビを観て過ごされる様にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は、ホームに散髪に来て頂いている。 ボランティアでナリス化粧品に来て頂いている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を直がれたら介助を行うなどして利用者のペースを大切にしている。食器拭きなどもお願いしている。野菜作りをし、旬の物を食べて頂く努力をしている。天気の良い日はテラスでお茶会や食事を行っている。食事をしながら、メニューの食材や季節の食材の話をしている。職員も同席し一緒に食べている時には、職員のおかず		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつでパンをだしたりして工夫している。 夏はカルピスや冷やして甘い物、冬はココアを準備してふかし芋などを支援している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	約2時間おきのトイレ誘導を行い、排泄の失敗やパターンをつかむよう支援している。 排便表記入により、個人の体調管理に努めている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められたスケジュールで実施している。 状態に応じて、入浴、シャワーをする時もある。 季節のゆず湯などを取り入れている。 日曜日はフットバスで足浴を行っている。	○	今後は考えてみます。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけをして臥床して頂いている。 個人に応じて湯たんぽを入れている。 体調により居室に暖房を入れている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を記入しているので、参考にして、利用者の好きな事(散歩、読書、歌をうたう)で楽しみや気晴らしになれるよう心がけている。 誕生日には外食にいつている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失した事がある為本人には持たせていない。 外出時は施設から手渡ししている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診の際などに外食したり、ドライブをして、季節の花などを観にいっている。 天気の良い日は散歩をし、外で体操や歌を唄っている。夕方、職員1人で1人の利用者を個別に散歩に連れて行っている。近所のお大師様参り		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の思いを家族に知らせて、実家に行っていただくこともある。 行事の中にも取り入れ、菜の花、花見、紅葉、ひまわり等他にも外出を取り入れている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら手渡ししたり、手紙を書いて頂き郵送したりしている。暑中見舞いと年賀状は必ず家族に出している。書けない方は職員と一緒に書いたり、写真を貼ったりしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出来る限り居室でゆっくり話していただけるよう配慮している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加して、理解するよう取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを重視し鍵をかけていないが、夜勤帯は、遅出の勤務者が帰る時に玄関の鍵をしめている。(18:50～8:00) 車イスの方もソファに座ってもらい職員が出来るだけ横にいるようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	体調などに注意し、常に見守りを行いながら、利用者の安全に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	車イスなどは歩行の邪魔にならないように片づけたりしている。刃物類は夜、事務所に保管している。不穏状態の方がおられる時は昼夜問わず事務所に保管。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防火訓練を行うなどして事故防止に努めている。		危険因子は全て事務所に保管した
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のミーティング時、看護師による勉強会を行ったりして知識を得るようにしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は毎月1回と、消防立入1年に2回実施している。推進会議時には、出席されて来る人に協力してもらえるよう話をしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ミーティング時に話し合っている。 口頭においても説明をするが、常に利用者の安全を考えながら暮らしてもらえるよう配慮している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック、入浴前のバイタルチェックなど行い、体調について対応している。 管理者や看護師に相談し、指示を受けている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を作成している。又、ミーティング時にも話し合いをしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩に行く事や、水分を毎食時、10時、15時、と必ず摂るようにして頂いている。 緩下剤は体調をみて調節している。 かかりつけ医に相談している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医に相談し往診してもらっている。自立にてされる方は声かけ、できない方にも一部介助のみで、利用者に応じた支援を心がけている。義歯は毎晩は外し水につけ、週2回洗剤剤につけている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量は記録している。水分量は重篤な状態に陥る為、飲まない方や、状態が悪化した方のみ記録している。ポカリスエット等を飲んで頂くよう準備し、努力している。水分で誤嚥のある方は、トロミにしたり、流動食にて摂取できるように		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては、利用者、職員共に予防接種を行っている。研修報告書などで知識を深める。その他については、うがい、手洗いを実施する。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設の畑でとれた野菜を使う。ふきん等もハイターにつけ、衛生管理に努めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門より玄関まではコンクリートだが、ゆったりとした出入口になっている。玄関や居室前には季節の花を植え、家族の方と穏やかに過ごして頂けるようにしている。又、近所の方も花を見て、「私		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には花壇があり、季節の花を植えるなどして工夫している。 玄関に花を活け、利用者がみえる場所(異食行為や壊す事を考え危なくない様な所)にも活けている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座位置を考えたししながら、一人ひとりの居場所づくりをしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の御主人の位牌を置く、若い頃の写真を飾る等、本人の気持ちを大切にしている。入居前使用していたタンス等の持ち込み、人形を飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて温度調節をしたり、窓を開け空気を入れ換えたりと、配慮している。温度・湿度計を設置し、天井からはプロペラを回転させている。脱衣所はファンヒーターを使用。洗濯物は夜は室内に入れ、乾燥を予防している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合うよう量の居室にしたり、ベッドを使用している。 車イスからソファに座って頂くなど、身体に負担をかけない様工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の耳元で伝えたり、分かりやすい言葉で話す事で、不安をなくして頂いたり、常に笑顔で接するよう心がけている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はベランダにてお茶会することもある。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない